

■ロシア：ロシア、原子燃料の緊急融通のための世界初の備蓄所を開設

国家コーポレーション・ロスアトムは2010年12月1日、ロシア国内に世界初の低濃縮ウラン備蓄所を開設したと発表した。備蓄所は非経済的な理由で原子燃料の供給がストップした諸国を救援する役割を持ち、2010年3月29日に調印されたロシアとIAEAとの協定に基づきアンガルスクに設置された。備蓄量は120トンの6フッ化ウラン(濃縮度2~4.95%)で、100万kW軽水炉の2回の装荷に必要な原子燃料を製造するのに十分な量である。備蓄所の開設は原子燃料サイクル関連サービスを確実に提供するというロシアの率直的役割の最も重要な側面とされている。ロシアは2007年、原子力の国際的インフラを拡充するとともに、カザフスタンとともにアンガルスク電解化学コンビナートを基礎に国際ウラン濃縮センターを設立した。センターは2008年に必要なライセンスを取得し、2009年にアルメニア、2010年8月にはウクライナの参加を受け入れている。